

私の好きな滑稽俳句二十句 ～

頬杖の何本も要る春愁 / 八木健

事件現場にあらず縄張る花筵 / 守屋典子

蟻の列サービス残業かもしれず / 三木蒼生

香水の名を言ひ当てて疑わる / 高田菲路

紙魚のつけ入る隙あらず電子辞書 / 魚田浩之

ファスナーを締め忘れけり蝉の殻 / 有吉賢二

アイロンをかけハンカチの過去を消す / 八木健

流灯となりても父の浮き沈み / 清水香舟

大雪で雪見酒会流れけり / 魚田浩之

花冷のちがふ乳房に逢ひにゆく / 真鍋呉夫

白障子白内障と読み違ふ / 田川飛旅子

夏なんか若い娘にくれてやる / 桐島洋子

イヴよりも露ならずや紐水着 / 鷹羽狩行

兄以上恋人未満搔氷 / 黛まどか

蜜豆やしあわせそうな愚痴を聞く / 大栗たか子

私が見つけた滑稽句

金髪に染めて帰つて村祭り / 永六丁目

焼芋屋地声となりて銭貰ふ / 藤井亘

春雨や喰はれ残りの鴨が鳴く / 小林一茶

銀行に怪しき身なり花粉症 / 高崎和音

一線を軽く飛越え猫の恋 / 前川敏夫